



👁️👁️ みどころ

『ロッキー』シリーズ全6作の後は新シリーズが始まり、第1作『チャンプを継ぐ男』に続く、第2作『炎の宿敵』が登場！ロッキーの息子はボクサーにならなかったが、アポロの息子アドニス・クリードが「チャンプを継ぐ男」として新シリーズの主演に！すると、第2作の“炎の宿敵”とは一体誰？

2019年の今、米ソの冷戦構造は過去の話だが、リングの上では別。リング上で栄光の王者アポロ・クリードを死に追いやったソ連の男イワン・ドラゴはロッキーに敗れて失意の人生を送ったが、その息子ドラゴ2世の強さはケタ違い。そんな2世ボクサー同士の宿命の対決は現実にはあり得ないが、映画なら・・・。

そんな贅沢な体験を本作でじっくりと。そして、ロッキー一家とアポロ2世一家の幸せぶりを確認しながら、シリーズ第3作に期待！

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□ 『ロッキー』全6作の後は『クリード』シリーズへ！ ■□

1976年に始まった『ロッキー』シリーズは『ロッキー・ザ・ファイナル』(06年) (『シネマ14』36頁) まで計6作続き、その後は装いを新たに『クリード』シリーズとして出発した。その第1作が『クリード チャンプを継ぐ男』(15年) で、そこではロッキー(シルベスター・スタローン)の宿敵だった王者アポロ・クリード(カール・ウェザース)の息子であるアドニス・“ドニー”・クリード(マイケル・B・ジョーダン)が、引退後はレストラン「エイドリアン」の経営者になっているロッキーの“弟子”として登場し、新シリーズの主演になっていく(『シネマ37』27頁)。新シリーズでもボクシング映画と恋愛映

画の融合が不可欠とばかりに、進行性難聴という重い病を持ちながらミュージシャンとして自分の道を歩むピアンカ（テッサ・トンプソン）とアドニスとの恋物語が登場するが、これはかつてのエイドリアンとロッキーとの恋物語とは全く異質だから、“旧世代”の恋物語と“新世代”の恋物語の異同に注目！

他方、本筋としてはアドニスが世界ライト・ヘビー級チャンピオンの“プリティ”・ロッキー・コンラン（アンソニー・ベリユー）に挑戦していくという、『ロッキー』シリーズ本来の物語が展開していくが、その作り方は『ロッキー』シリーズと同じような骨太で王道を歩むもので大きな感動を呼んだ。しかして、トータルで第8作、新シリーズで第2作目となる本作は？新シリーズ第1作の「チャンプを継ぐ男」とはアドニスのことだったが、本作の「炎の宿敵」とは一体ダレ？

■ロッキーとアポロの因縁と友情からアドニスが誕生！■

ロッキーが最強の世界ヘビー級チャンピオンであるアポロ・クリードに勝利して新チャンピオンになったのは、『ロッキー2』（79年）。もっとも、その壮絶なタイトルマッチではラストで両者ともにノックダウンし、先に立ち上がったのがロッキーだったという極めて僅差での勝利だった。続く『ロッキー3』（82年）では、10度のタイトル防衛戦に成功し、ボチボチ引退の時期に差し掛かってきたロッキーに対して、クラバー・ラングという新たな強敵が登場する。そして、その挑発に乗ったロッキーは第2ラウンドでKO敗けしてしまうものの、宿敵だったアポロがロッキーのトレーナー役に就くという異例の展開の中で特訓を重ね、再戦の結果、ロッキーはKO勝ちでチャンピオンの座を奪還することに。

シルベスター・スタローンが書いた脚本を元に作られた『ロッキー』シリーズはこのように次々と展開していき、その後の『ロッキー4 炎の友情』（85年）『ロッキー5 最後のドラマ』（90年）でも興味深い物語の展開と、手に汗を握るファイトシーンで人気を継続した。しかし、さすがに『ロッキー・ザ・ファイナル』（06年）では、クライマックスのタイトルマッチでロッキーに勝たせたのではあまりに現実味がないため、最終ラウンドで判定負けになりながら観客から両対戦者に絶大な拍手が贈られるという形で結着させた（『シネマ14』36頁）。そんなロッキーの物語を、装いを新たにシリーズ化していくためには2世を登場させるのがベスト。

そんな考え方で新シリーズの第1作たる『クリード チャンプを継ぐ男』の主演として登場させたのが、アポロとアポロの愛人の間に非嫡出子として生まれ、当初はアポロの息子であることを隠していたアドニス・“ドニー”・ジョンソンだった。ちなみに、ロッキーには愛妻エイドリアンとの間に生まれた息子ロバートがおり、彼は『ロッキー5』『ロッキー6』に登場していたが、「アポロ2世」であるアドニスは、ロッキーの息子同然の愛弟子として登場するわけだ。そう考えると、アドニスはロッキーとアポロの因縁と友情の中

から誕生した新ヒーローということになるので、その位置づけをしっかりと。

■井岡2世と同じサラブレッドのアポロ2世の今は？■

「井岡2世」ともいうべき井岡一翔（かずと）は、プロボクサーを父に持ち、元世界2階級制覇王者である井岡弘樹を叔父に持つサラブレッドで、世界最速で世界ミニマム級などの3階級を制覇した王者だ。2017年12月31日に引退届を提出した彼は、2018年7月20日に引退を撤回して現役復帰を宣言した。そして、同年9月8日にアメリカで行った試合で勝利し、世界最速でミニマム級等3階級を制覇した。

そんな彼は2018年大晦日には、マカオのウィンパレスで開催された元3階級制覇王者ドニー・ニエテスとWBO世界スーパーフライ級王座決定戦12回戦で対戦した。私も固唾を飲んで見守ったその試合は一進一退を繰り返したが、結果は、井岡の判定負け。しかし、その内容は次のファイトへの期待を持たせるものだった。そんな井岡2世こと井岡一翔と同じような血統書付サラブレッドであるアポロ2世ことアドニス、新シリーズ第1作のラストで、新チャンピオンの座に就くことになったが、今はいかなる立場に？

■2世ボクサー同士の対決は如何に？体重差が顕著だが■

世の中には2世の国会議員も多いが、2世の格闘家も多い。井岡2世やアポロ2世と同じように、イワン・ドラゴの息子、ヴィクター・ドラゴ（フロリアン・ムンテアヌ）も、ドラゴ2世として今は立派なプロボクサーに成長していた。しかし、栄光に包まれながら、ゴング上で死亡した王者アポロと違い、イワン・ドラゴは『ロッキー4』でアポロを倒したものの、その復讐に燃えるロッキーとの戦いで敗れたためすべてを失い、その後の彼の人生は惨めなものになっていた。そんな父親から“リング上の獰猛な野獣”として育てられ、鍛え上げられたドラゴ2世にとって、ロッキーは父親の宿敵だから、その愛弟子で息子同然のアポロ2世も宿敵だ。他方、今やチャンピオンとして世界に君臨しているアポロ2世にとって、ドラゴ2世は自分の実の父親をリング上で死に至らしめた憎っき宿敵の息子だ。

そのため、新シリーズ第2作の邦題には『炎の宿敵』というサブタイトルが付けられたわけだが、今の立場を比べると、圧倒的にアポロ2世の方が優位。ドラゴ2世としては次々に挑発して「俺と試合をやれ！」とけしかけるしか方法がないのだから、この道何十年を生きてきたロッキーは冷静。「お前は、今そんな挑発を受ける必要はない」と言ってきかせたが、若いアポロ2世はそれに従わなかったから、さあ大変だ。ロッキーは「俺はセコンドに就かないよ」とまで言って、ドラゴ2世の挑戦を受けることに反対したが、アポロ2世はそんなロッキーの忠告を無視。まんまとドラゴ父子の術中にはまってしまふことに。今2人はリング上で対峙したが、にらみ合っている2人の体重差をみればそのパワーの差は顕著だ。2018年大晦日に実現した「RIZIN.14」最終戦スペシャルエキシビジ

ョンにおけるフロイド・メイウェザー v 那須川天心戦では、1回2分19秒テクニカルノックアウトという形で両者のパワーの差（=実力差）がハッキリしたが、本作中盤のクライマックスとなるドラゴ2世 v アポロ2世の試合も1ラウンド目から勝敗の帰趨は明らかだ。もっとも、圧倒的に優位に試合を進めるドラゴ2世はゆっくりいたぶりながらアポロ2世をノックアウトすればいいのだが、ラウンド終了を告げるゴングが鳴っても攻撃を続けるという初歩的ミス（反則行為）によって、試合はドラゴ2世の反則負けに。その結果、アポロ2世はチャンピオンに留まることができたが、ボディへの痛打によって彼の腎臓はボロボロ。もちろん、目にも大きなキズを。その他全身に大ケガを負ったアポロ2世は病院に運び込まれ長期のリハビリを余儀なくされることに。こうなると、去る1月16日に引退届を提出した横綱、稀勢の里と同じように、アポロ2世は早期に復帰戦をやらなければチャンピオンベルトを剥奪されるのは必至。今や、愛妻ビアンカと生まれたばかりの子供に励まされてはいるものの、アポロ2世の前途は真っ暗で、彼の気分は落ち込むばかりに・・・。

■□■再戦はあるの？タイトルマッチの結果は？■□■

『ロッキー』シリーズ全6作で、ロッキーは何度も奇跡の復活を遂げる中で、さまざまな宿敵とリング上で対決してきたが、それはロッキーが稀勢の里の左胸のケガのような致命傷を負わなかったため。もちろん年齢の衰えを避けることはできないが、ロッキーはそれを常人の数倍のトレーニングを積むことで克服してきた。しかし、本作にみるアポロ2世のケガは稀勢の里以上の致命傷だから、これではリハビリを重ねて車椅子生活を免れるのが精一杯。誰が見てもそう思える状態だったが、それでもなお、アポロ2世はチャンピオンだ。したがって、そのベルトを奪取するべくドラゴ2世が再戦を熱望していることを知ると、アポロ2世は俄然それを受けて立つ決意をすることに。

こうなると、ロッキーも引っ込んではいられない。今度は愛弟子の“復活”のために喜んでセコンドを約束したから、アポロ2世も勇気百倍だ。さあ、ここからは『ロッキー』シリーズで毎度見てきた、試合に向けた地獄の特訓＝トレーニング風景が始まることに。もちろん、ドラゴ2世の方も、前回は試合に勝ちながらタイトル奪取に失敗した経験に懲りているから、このタイトル戦に向けての準備は万全。しかも、前回はアウェイの試合だったのに対し、今回はモスクワでのタイトルマッチだから、リング上にアポロ2世が登場すると会場は一斉にこれにブーイング。これならドラゴ2世に負けの目はなさそうだ。

試合が始まると、そんな予想通り1ラウンドからドラゴ2世の優勢は明らか。もっとも、前回はドラゴ2世のパンチの前にもろくも崩れそうになっていたアポロ2世だったが、今回はかなり防御のテクニックが上達。そのため、打たれても打たれても小さなパンチでの反撃を加え、それが的確にドラゴ2世の顔面やボディを襲っていたから、少しずつドラゴ2世のダメージも大きくなっていくことに。井岡一翔 v ドニー・ニエテスのタイトルマ

ッチは互いに防衛のテクニックが優れていたため、試合終了後に双方とも顔面のキズはなく、きれいなままでの僅差の判定差だった。しかし、映画はそれでは面白くないため、アポロ2世 v s ドラゴ2世のタイトルマッチは、ラストラウンドに向けて互いに死力を尽くしたパンチを交わし合うことに。しかして、その結果は・・・？

■ロッキーの家族は？アポロ2世の家族は？自作への期待■

『ロッキー5 最後のドラマ』ではロッキーの息子ロバートが登場したが、ロッキーが新進気鋭のボクサー、ドミー・カンの育成に夢中になっている姿を見てこの父子の間に溝が生じていた。そのため、第6作たる『ロッキー・ザファイナル』ではロッキーの愛妻エイドリ안의命日にもロバートがやってこないほど、父子の関係は悪化し断絶していた。また、新シリーズ第1作ではロッキーは妻の名前を付けたレストラン「エイドリアン」を一人で経営しながら余生をおくっていたが、そこではロッキーのガンが判明したから、同時期に大腸ガンが判明し手術を余儀なくされた私は人知れず心配していたものだ。栄光の時期を送ったヒーローたちの晩年が幸せかどうかはわからないもので、下手するとロッキーも息子との関係が断絶したまま一人ガンで死亡という哀れな結末も予想されたが、それでは映画にはならないので、新シリーズ第2作では『炎の宿敵』という面白いストーリーを作り上げることに成功した。もっとも、そこではロッキーのガンについては、手術したとも全快したとも描かれていないが、これはある意味説明責任の放棄と言わざるをえない。

本作ではアポロ2世が無事ドラゴ2世に勝利しチャンピオンベルトを守った後、ロッキーは恒例のエイドリアンへの墓参りを終えると、ロバートに会うためシカゴに赴くことになる。そこで既に小学生くらいに成長しているロバートの子供（＝ロッキーの孫）のローガンと会い、「おじいちゃんだよ」と紹介されたから、ロッキーはウハウハ。

他方、アポロ2世の方も、妻のビアンカと共に父のアポロの墓を訪れ、その後は2人の間に生まれた女の子アマラをビアンカの祖父に紹介していたから、こちらの家族関係も万々歳だ。このように、新シリーズ第2作は「万事、めでたし、めでたし」の状態で「大団円」となるが、新シリーズ第3作ではアポロ2世はどんな立場に？そして、そのタイトルに挑戦してくる男は一体誰？ちなみに、私も今年1月26日に70歳の誕生日を迎えるが、ロッキーもそろそろいい歳。そして、心配なガンの再発は・・・？きっとまたシルベスター・スタローンが書くであろう第3作の脚本を楽しみに、シリーズ第3作の完成を心待ちにしたい。

2019（平成31）年1月23日記